

西田恭子さん直伝

「リフォーム」で快適わが家

VOL.8 ▲ オープンキッチン



主婦の調理場から 家族団樂の場へ

キッチンがまさに主婦の城。長時間そこに滞在する主婦こそ、キッチンの主であることに、昔も今も変わりはないでしょう。とはいえ、お城にポツンと一人だけいてもつまらないもの。せっかくのお城ですら、家族団樂という園遊会でも開ける場所にしたいものです。いまやキッチンは、家族が集い、楽しみ、くつろぐための空間。そこで今、人気を集めているのがオープンキッチンという形状なのです。

オープンキッチンとは、ダイニングとの区切りがない、開放的なキッチンのこと。以前からDK一体型のタイプはありましたが、現在でいうオープンキッチンとは、スペースが狭くてDKが一緒というタイプとは一線を画すもの。狭いからオープンにするのではなく、より開放的にするために、オープンキッチンを好む家庭が増えていきます。キッチンには、独立型・対面型・DK一体型などのタイプがありますが、そのなかでオープンキッチンの人気が高まっている背景には、キッチンの役割が、

主婦一人で料理をする場所から、家族団樂の場所へと変わってきていることがあります。キッチンの主である主婦のまわりに家族が集まり、料理をしながらおしゃべりを楽しみ、家族がくつろぐ場所へと、今、キッチンは進化しつつあるのです。

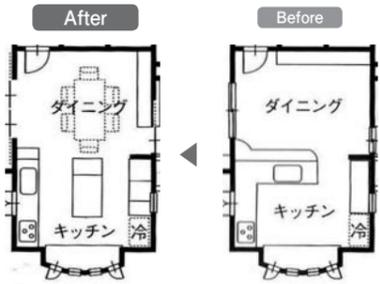
アイランド型の 快的で開放的な空間

東京都在住のNさんは10年前に新築されたばかり。既存のキッチンは対面型であり、DKが分断されてしまう形になるため、当初から使いにくさを感じていらつしやいました。

Nさんは1日の大半をキッチンで過ごすほど料理がお得意

で、10代の2人のお嬢さまも一緒に料理をされます。新築10年目でキッチンを総入れ替えする、もったいなさはありませんが、アイランド型のオープンキッチンへリフォームすることを提案しました。アイランド式とは回遊できる調理台をキッチンの真ん中に置くこと。これによって開放的で快適なキッチンへと生まれ変わっています。

オープンキッチンへのリフォームは、より細かい打ち合わせが必要です。食事中に料理後のゴタゴタを見せないよう収納場所を詳細に決め、匂いなどの対策も重要。そうした工夫を施してこそ、家族が団樂する主婦の城を実現できるのです。



対面式からフルオープンにフルオープンにすることで、24㎡の広々とした開放的なDKを実現した。



スムーズな動線を実現したアイランド式キッチン
アイランドの調理台により、2人のお嬢さまとも広々とお料理を楽しめる。家電製品はダイニングから見えないよう収納。



収納の充実も大切
何をどこにしまうか、収納場所をきちんと決めておくことも重要。最新のシステムキッチンは、使い勝手がよく、効率よく収納できる。



開放的なダイニングキッチン
キッチンとダイニングが1つのゾーンとなり、開放的な空間で食事ができる。

次回のテーマ

“□□□□◇”
お楽しみに!

三井のリフォーム 住生活研究所 Life Style Labo

西田さんが所長を務める「三井のリフォーム 住生活研究所」は、2007年10月にオープンしたリフォーム業界初のシンクタンクです。研究所のスタッフ全員が女性のリフォームプランナーで、累計10万にものぼるリフォーム実績をもとに、「リフォームカレッジ」でさまざまな情報発信を行っています。またリフォームに関わる書籍も「減築」リフォームでゆうゆう快適生活」など多数発行している。

東京都港区赤坂9-7-1 ミッドタウン・タワー7階「リモデ東京」内
TEL:0120-312-122
営業時間：10:00～17:00（水曜・日曜・祝日定休、年末年始休業）
www.lifestyle-labo.com



「三井のリフォーム住生活研究所」所長
西田恭子（にしだ きょうこ）さん
住宅リフォーム設計を手がけ25年。その経験からリフォームの情報収集・分析を発信している。一級建築士